

産業用開拓 10億円規模に

高機能光触媒

市場をつくる



フジコー社長
萩尾 寿昭 氏

鉄鋼業界に圧延ロールを供給するフジコー（北九州市戸畑区、萩尾寿昭社長、093・871・3724）が、光触媒事業を第2の柱に育てようと奮闘している。一時期のブームは沈静化しているが、光触媒のニーズは根強い。同社製品は独自の溶射技術で、室内光のみでも高い消臭殺菌効果を実証済みだ。萩尾社長に展望を聞いた。

（北九州支局長・大神浩一）

「2013年に環境事業 億円規模に育てたい」を扱う若松響工場を建設、本格量産から5年がたちました。

「空気清浄機とフィルター販売、産業用浄化・脱臭装置、医療用殺菌タイルが主な用途で、売上高は2億円と全社売上高（18年3月期で140億円）に比べればわずかだ。まずは19年度に3億円を超え、早期に10億円規模に育てたい」

地球環境に貢献 アピール



若松響工場では溶射技術を使って光触媒製品を製造している

えなため、なかなかPRできないのが悩みだが、揮発性有機化合物（VOC）や悪臭、農畜産場での脱臭などで実証している。宮崎大

学との実証実験では養豚場での子豚の死亡率が減るなど、脱臭だけでなく殺菌効果も発揮できている。今後は養鶏向けも挑戦したい。戸畑区の技術開発センターを若松響工場に移転集約します。

「中堅企業は人材の絶対量が足りない。当社の技術者も1人で複数テーマを抱え、お互いが補完し合っ

販売力の弱さを地道に克服を

フジコーの光触媒製品は北九州市内の官民施設に多数設置され、また「第4回ものづくり日本大賞」を受賞するなど評価も高い。問題は全国の中堅企業共通の課題でもある販売力の弱さだ。萩尾社長は最低限の投資で最大の効果を発揮するため、主な顧客を消臭や殺菌対策に長年苦慮してきた産業・医療・農業分野に切り替えようとしている。環境意識の高い現代だからこそ、「エコで高機能」を地道に訴えていくつもりだ。